

# 人々のくらしと社会環境

渋谷教育学園幕張高等学校 五月女 圭三

## 1. はじめに

社会環境とは自然環境に対する言葉で、宗教や言語、文化など人間によって作りだされているものである。パレスチナ問題、イラク民族問題、コソヴォ民族紛争などの国際的な紛争の原因は、社会環境の違いによるところが大きい。ここでは、人々のくらしのわかる写真から、背景にある宗教や言語などの生活・文化を読みとり、それが産業やグローバル化といかに関わっているのかについて考察する。生徒に気づかせるためのくふう、大学入試センター試験では必須のテクニックであることにふれる。

## 2. 写真から社会環境を読みとるスキル・着眼点

写真から社会環境を読みとるためには、「写真が何を伝えたいのか」を考える姿勢をもつことが大切である。写真を漠然と見ているだけでは、「きれいな景色だ」とか「人が大勢いる」だけで終わってしまう。まず、写真全体を眺めてどの部分に注目すればよいかを考える。人が写っていれば、肌や髪の色などから人種が、服装や食事などから宗教や習慣などが推測できる。土地利用はどうか。農産物や家畜、工場などから、その地域の産業を推測することができる。標識や看板から言語がわかる。写真がどの地域(国)のものであるか、何をしているのかを推測する。

## 3. スキルコーナーを例に社会環境を読みとってみよう。

『世界を学ぶ高校生の地理A(最新版)』(以下教科書)p.77「スキルコーナー 写真から環境を読みとろう④モーゼル川の谷あいにある村(ドイツ)」〈写真1〉の写真を例に社会環境を読みとってみよう。モーゼル川は、フランスのヴォージュ山脈が源流である。ナンシーやメスを経て、ルクセンブルクとドイツの国境を流れ、ライン川に合流する河川である。



〈写真1〉『世界を学ぶ高校生の地理A(最新版)』p.77④

### 「⑤山の斜面のようすは？」

河川の斜面上に畑が広がっている。これだけでは何を栽培しているのかわからない。生徒に気づかせるためのくふうとしては、水はけのよい斜面に適した農産物であること、日本では棚にして栽培していることなど、栽培方法に違いがあることを助言して推測させたい。

畑で栽培されているのは、ぶどうである。『新詳高等地図(初訂版)』(以下地図帳)p.49「①ヨーロッパの農業」や教科書p.105「⑦ヨーロッパの農業地域」〈図1〉を参照させ、モーゼル川の流れるドイツ中西部は、ぶどう栽培の北限に位置していることを確認させたい。斜面で栽培されている

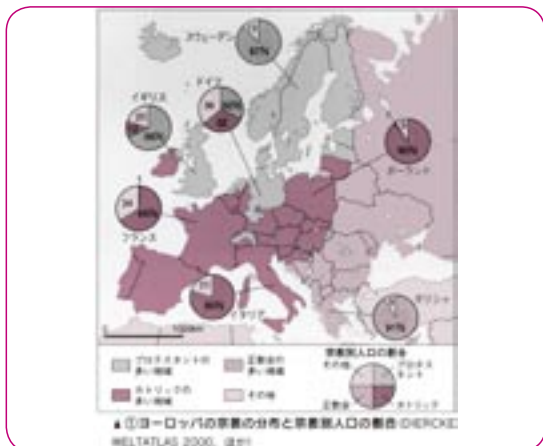


〈図1〉『世界を学ぶ高校生の地理A(最新版)』p.105⑦

のは日射量を確保するためである。高緯度の気候条件のため色素の濃い黒いぶどうは生育しない。逆にやわらかな日照を長時間とれるため、酸味の豊かな白ぶどうが生産され、モーゼルワインとしてヨーロッパ有数の白ワイン産地になった。

#### 「⑥町のようすは？」

古城と教会が目につく。モーゼル川流域は、フランスとドイツの戦争に巻き込まれた地域である。また、古代よりローマ帝国の影響を受けた地域である。フランスとの国境に位置するトリアーは、中世ローマ帝国の遺跡も残存する。写真中央に建っているのはカトリック教会である。キリスト教・カトリックはローマ帝国とともに広まった。後のルターによる宗教改革によりプロテスタントが生まれたが、地図帳p.51「②ヨーロッパの宗教」や教科書p.104「①ヨーロッパの宗教の分布と宗教別人口の割合」(図2)によりドイツ中西部や南部は、カトリックの信者が多い地域であることを確認させたい。



〈図2〉『世界を学ぶ高校生の地理A (最新版)』p.104①

#### その他

モーゼル川自体にも注目させたい。流域は古代より水上交通が発達していた。炭田を背景に発達したドイツ最大の鉄鋼業地域のルールは、初期の発展期において、フランスのロレーヌ地方から水上輸送される鉄鉱石を原料として使用していた。また、ロレーヌは、支流のザール川流域の炭田と水上交通で結びついて両地域で鉄鋼生産が発達した。地図帳p.49「⑥交通網(貨物)」(図3)を見ながら



〈図3〉『新詳高等地図 (初訂版)』p.49⑥

モーゼル川の水上交通の重要性について確認させる。

#### 4. 生活文化に影響を及ぼす宗教

宗教が人々の生活に与える影響は大きい。マレーシアは、1963年にイギリスから独立した多民族国家である。民族構成は、マレー系(66%)、中国系(約26%)、インド系(約8%)、その他(1%) [外務省ホームページ 各国・地域情勢より] である。イギリスの植民地支配時代に、すず鉱山の技術労働者として中国南部より中国人が、ゴムプランテーションの労働者としてインド南部よりタミル人が移動してきた。先住民のマレー系住民を含め3民族が生活している。ちなみに1971年よりブミプトラ政策(マレー人優遇政策)を実施しており、国語がマレー語であるなど他の民族、とくに経済的実権を握る中国系住民の不満は多い。

教科書p.78「①クアラルンプールの街かどのようす(マレーシア)」(写真2)からイスラーム(イスラム教)、ヒンドゥー教、仏教の人を推測する



〈写真2〉『世界を学ぶ高校生の地理A (最新版)』p.78①

ときの着眼点は、服装と肌の色（顔立ち）である。とくに女性の服装は民族性があらわれやすい。最も目立つベルをかぶっている女性はイスラームを信仰しているマレー人であろう。イスラームの女性は、宗教上、肌の露出が禁止されている。

次に目立つのはタミル人である。タミル人は、インド南部に居住する先住のドラヴィダ系で、肌の色は茶褐色である。また、サリーとよばれる女性用の民族衣装は艶やかである。教科書p.86「②ジーンズをはいた女子学生（ムンバイ）」のようにジーンズやワンピース姿の女性も見られるようになったが、今でも年配のサリー姿の女性が多い。数年前、私がクラス担任していたインド人生徒の母親は、保護者会もクラス懇談会もいつもサリー姿であった。

### 5. 生活・文化に及ぼす言語と多民族国家

大学入試センター試験には、毎年、写真を使用した出題が見られる。写真から環境を読みとるテクニックはセンター試験ではおなじみである。平成19年度 地理A 第4問の間4 26 は、スカンディナヴィア半島における環境破壊への対応をしている「ヘリコプターによる湖への石灰の散布」の写真を見て、その原因を選ぶ問題が出題されている。化石燃料の大量消費によって工場などから排出される原因物質により酸性雨がもたらされる。写真は、酸性雨により酸性化した湖を中和させているところで、散布されている石灰がポイントである。

平成18年 地理A 第4問 27 は、ベルギー・ブリュッセルの道路標識の写真(写真3)を読みと



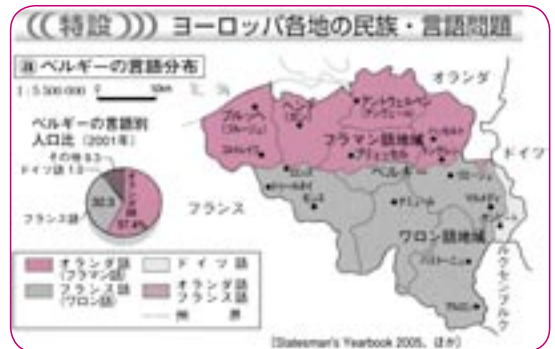
〈写真3〉大学入試センター試験 平成18年 地理A 第4問

る問題が出題されている。Ring(環状高速道路)への誘導標識にGent(ヘント)－Gand (ガン)、Mons (モンズ)－Bergen(ベルヘン)の地名表示がある。

Gent (ヘント) はフラマン語でブリュッセル西部のベルギー第3の都市である。ワロン語(フランス語)ではGand (ガン) と表記される。また、ブリュッセル南西部に位置するMons (モンズ) はワロン語である。フラマン語(オランダ語)ではBergen (ベルヘン) と表記される。

ベルギーの北部では、オランダ語(ゲルマン系)、南部では、フランス語(ラテン系)と全く違った系統の言語が話されていること、首都のブリュッセルでは両方の言語が話されていることを地図帳p.51「(特設) ヨーロッパ各地の民族・言語問題 ④ベルギーの言語分布」(図4)で学習させたい。

複数の言語を使用し、それぞれの宗教を信仰している多民族国家は多い。ユーゴスラビア(教科



〈図4〉『新詳高等地図(初訂版)』p.51④

書p.81)のように戦争になり、それぞれの地域が分離独立した。また、コソヴォ自治州のようにいまだ住民対立が続く地域もあることを確認させ、紛争の原因が正教を信仰するセルビア系住民とムスリム(イスラム教徒)のアルバニア系住民の対立であることを考えさせたい。

### 6. おわりに

写真から社会環境を読みとるには、さまざまな角度からアプローチすることが必要になる。人種、民族、産業など地理的な基本的知識はもとより、他の幅広い知識や経験によって一枚の写真からいろいろなことがわかってくる。地理が総合的な学問であるゆえんである。